

●漁況情報

- 真鶴町漁協自営定置でキハダマグロが豊漁です。最も多い日で450本が入網し、今シーズン（8月～9月末）では約1,100本と、例年を上回る嬉しい漁が続いています。



水揚げされたキハダマグロ

●浜の話題

- 9月5日、横浜市漁協金沢支所で、青年漁業士申請者を対象に青年漁業士養成講座を開催しました。当日は、普及員が「1965年以降の黒潮流型の推移と漁況の対応」と「IT漁業情報で閲覧できる漁業に役立つ情報」の2課題について講義しました。



青年漁業士養成講座の様子

- 9月中5回、長井と小坪地区の漁業者が生産するワカメ種苗の検鏡と育成小屋の環境測定を実施しました。水温低下に伴い小屋内を4000ルクス以上に明るくして、10日毎に海水交換により栄養分を与えて成長を促し、9月末には卵細胞や芽胞体も少しずつ見られるようになりました。



ワカメ種苗検鏡の様子

- 9月13日、かながわ県民センター会議室において第3回漁業士役員会が開催されました。当日は10月25日に地球市民かながわプラザで磯焼け対策のテーマで開催する漁業士研修会、来春1月の漁業者交流大会及び漁業士通常総会の開催と内容について協議が行われました。



役員会の様子

- 9月13日、平塚市漁協は地先の砂浜で、チョウセンハマグリ、貝桁漁及びまんがん漁の試験操業を行いました。貝桁漁は10分間で2.4kg漁獲されました。まんがん漁は、当日はサーファーが多く10分間の操業で1個の漁獲で試験を終えましたが、7月に江の島片瀬漁協の漁業者から講習を受けた漁法で今後の展開が期待されます。



貝桁漁の様子



まんがん漁の様子

- 9月17日、(株)横浜港埠頭によるカサゴ種苗(2万5千尾全長6cm)の放流が、横浜市漁協本牧支所の組合員の立会いのもとで、本牧漁港内において行われました。



本牧漁港のカサゴ放流と種苗の様子

- 9月21日、当センター栽培推進部は、調査船江の島丸で底延縄によるトラフグ調査を実施しました。神奈川のトラフグ延縄漁は浮延縄が主体で、沈子で固定する底延縄漁では、漁場の利用効率向上や、浮縄で表層のトラフグの喰いが悪い際の漁が期待されます。冬場主体のトラフグ漁で時季外れでしたが、トラフグ担当研究員によれば、長者ヶ崎沖の3地点の調査で42cmのトラフグがマアナゴやカサゴ類に混じって釣獲されたそうです。

江の島丸コラム 「江の島丸に福が来た！」 トラフグ調査の様子

<https://www.pref.kanagawa.jp/documents/11459/enosimamarunifukugakita.pdf>



江の島丸でのトラフグ底延縄操業風景

トラフグ試験操業 速報

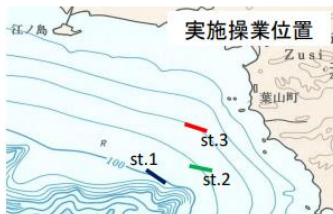
9/21に実施した分布域調査の結果です。



トラフグ2尾(ともに42cm)釣獲!
しかし1尾は雑種の可能性高い。
(背面、腹面ともにつるつる)



漁獲されたトラフグ(1尾は雑種)



位置	St.1	St.2	St.3
投縄時刻	8:20-8:45	9:13-9:39	10:05-10:30
揚縄時刻	12:19-12:49	欠測-13:30	13:19-欠測
水深(m)	99.7-101.3	79.3-80.7	57.0-58.3
海底水温(°C)	14.2-14.4	14.6-14.8	16.0-16.4
漁獲物	マアナゴ、オニカサゴ、ウツカリカサゴ、ダイナンウミヘビ×2	トラフグ(雑種?) ダイナンウミヘビ×2	トラフグ、イトヨリダイ、ダイナンウミヘビ×2

連絡先 神奈川県水産技術センター 栽培推進部
TEL:046-882-2314(担当:加藤大棋)

- 9月21日、茅ヶ崎市漁協において、県は青年漁業士養成講座(漁業技術コース・第2回)を開催しました。
- 9月26日、平塚市漁協と大磯二宮漁協と同漁協に所属する定置漁業者は、平塚市漁協において4定置懇談会を開催しました。湘南広域水産業再生委員会の取組みの一環で、販促パンフの作成や連携による漁獲物の高付加価値化について意見交換をしました。



懇談会の様子

- 9月27日、三和漁協城ヶ島支所は水産技術センターと共同で、同センターで生産したカサゴ稚魚(魚体の大きさ6.8~9.7cm、平均8.5cm)3,502尾を島の南側の海域に数力所に分けて放流しました。放流魚の回収率等を把握するため、外部標識として、腹鰭抜去(左側の腹鰭を除去)を実施していますので、水揚げ時に気づかれた場合は水産技術センター栽培推進部までご連絡いただくようお願いいたします。



放流したカサゴ稚魚



放流の様子

○ 9月30日、本県に令和元年年9月に襲来した台風15号によって破損した幸浦・福浦地区の護岸の修復工事が完了しました。これを記念して、横浜市漁業協同組合ではカサゴとメバルの稚魚（各3,5千尾、全長7cm）を横浜市港湾局の職員など工事関係者と一っしょに、同護岸の地先に放流しました。また、この放流の様様については、地元のケーブルテレビが取材に訪れていました。



修復された幸浦・福浦地区の護岸（左上）と放流の様子

○ 10月3日、本年度、水産技術センターでは横須賀市東部漁協の協力を得て、カキ養殖の試験を計画しています。これに先立ち、横須賀市東部漁協 走水大津支所の指導漁業士高取丸さんと青年漁業士菱倉丸さんに協力していただき、ペットボトルの廃材を活用して試験に使用する稚貝の採苗を行いました。ペットボトルに付着して3か月ほど経過した稚貝を剥離したところ、殻長3cmほどに成長していました。また、稚貝の剥離はペットボトルを用いることによって、容易に剥離することができました。これらの稚貝は11月中旬から開始予定の養殖試験に活用していく予定です。



ペットボトルを用いたカキ稚貝の採苗の様子

○ 10月4日、平塚市漁協は、有楽町の東京交通会館で催された「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」地域別マルシェに出展しました。平塚漁港と同漁協の「平塚のシイラプロジェクト」をPRし、プロジェクトの推し商品：常温保存可能なシイラの燻製を販売しました。ディスカバー農山漁村の宝は、国が農山漁村の地域活性化等の優良事例を選定し全国へ発信するもので、同漁協は第2回の平成27年に選定を受け、取り組みを継続しています。



マルシェの様子



シイラの燻製

● お知らせ

①「漁業士研修会」について

神奈川県漁業士会は県と共催で漁業士研修会を開催いたします。コロナ感染症の影響で3年ぶりの開催となります。県下全域で課題となっている磯焼け対策等をテーマとしておりますので、関連漁協・団体の皆様（申し込み不要・当日受付）は、ぜひご参加ください。

日時・場所：令和4年10月25日(火) 15時30分から17時15分

地球市民かながわプラザ映像ホール（最寄 JR 本郷台）<https://www.earthplaza.jp/ep/access/>
講演内容

「磯焼けの現状と海藻の増殖試験について」講師：栽培推進部担当主任研究員

「サザエ、アワビ等の磯根資源について」講師：栽培推進部担当技師

②「漁業物価高騰対応費補助金」について

浜の話題前号でお知らせした、漁業者の燃油高騰や省エネ対策に係る助成事業「漁業物価高騰対応費補助金」①漁船燃料費の一部を助成の申請は10月21日（締切）、②省エネ型エンジンの導入については11月30日（締切）、神奈川県漁連指導部必着となっております。

詳細は下記ホームページでご確認の上、期日内に申請ください。

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/kb2/gyogyoubukkakoutoutaiouhihojiojigyou.html>

本事業に係るQ&A https://www.pref.kanagawa.jp/documents/90707/qa_220928.pdf

お問い合わせ先：県漁連指導部 045-773-8877、水産課水産企画班 045-210-4542

